

# 福島県 教育新聞

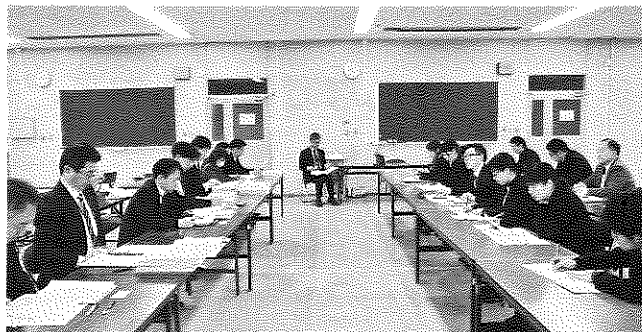
発行人 福島県教職員組合  
発行所 福島市上浜町10-38 電話024-522-6141  
〔定価一部 20円〕  
編集・責任者 角田 政志  
e-mail: ftukyoso@poplar.ocn.ne.jp  
http://www.f-t-u.or.jp  
(この購読料は組合費に含まれています。)

## 県教組各専門部県教委交渉実施 それぞれの専門部で実態を訴える！

12月27日(木)、福島県庁で県教組各専門部は、県教委と交渉を行いました。  
各支部から、たくさんの組合員が参加し、現場の実態を訴えることができました。  
各専門部の県教委との交渉内の重点内容と課題は下記の通りです。

### 青年部

- 事前に実施したアンケートを基に、次の実態を訴えた。
  - ・事務処理や、調査報告が多く、教材研究に支障をきたしていること。
  - ・小規模校で、他の仕事で本務ができないこと。
  - ・人事異動の3管内3地区を経験するルールにより、結婚と子育てに弊害がでていること。
- などについて改善を求めた。

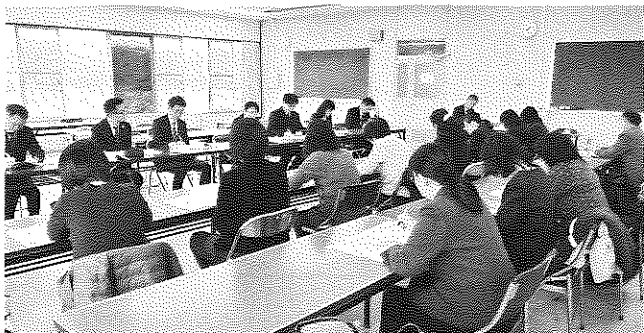


### 事務職員部

- ・主任主査の異動は、基幹校の固定を行わず柔軟に対応すること。
  - ・教員の多忙化解消のために事務職員に業務を負担させないこと。
  - ・新採用者の実務研修を充実させること。
  - ・旅費・給与と事務を改善させること。
  - ・主任主査の承認年齢の引き下げ
- などについて訴えた。

### 障がい児教育部

- ・支援学級の増加に伴い、「インクルーシブ教育」を意識した研修を行うこと。
  - ・巡回通級は成果が上がっていること。
  - ・大きな発達障がいという枠での実施も検討すること。
  - ・医療ケア看護師の配置により、子どもの学習が補償された。引き続き、「合理的配慮」が行えるように、予算をとること。
- などの要望を行った。



### 栄養教職員部

- ・学校給食において、放射性物質に関わる食材のきめ細やかな検査態勢の継続と充実を図るための、持続的な人的配置と予算の確保を行うこと。
  - ・食物アレルギー対応の校内体制を整備すること。
  - ・多忙化の要因のひとつになっている「高校生のための栄養教室」への栄養教諭の講師派遣の実態を改善すること。
- などについて訴えた。

### 養護教員部

- ・次の点について改善することを求めた。
  - ・フッ素洗口の問題点と多忙化に拍車をかけている実態。
  - ・震災直後よりも今のほうが子どもの心がすんでいる実態。
  - ・甲状腺検査の業務が負担になっている実態。
  - ・小規模校で養護教諭が給食の担当をさせられ、「保健便り」よりも「給食便り」を優先して作成しなければならない実態。
- などについて訴えた。

### 女性部

- ・「介護休暇」の期間を1年以上に拡大すること。
  - ・子どもだけでなく、介護を含めた「家族に関する休暇」について検討すること。
  - ・「家族のための短期介護休暇」を拡大すること。「子育て休暇」を拡大すること。
  - ・不妊治療、切迫流産について、180日の病休に含めること。
- などについて実態を踏まえて強く訴えた。

福島県教組教育課程編成推進委員会からの提言

# 『学校あるある』を見直そう！(その9)

## 夏休みを削って、土曜授業を増やして… 燃え尽きなきゃいけないの？

学校週五日制は「生きる力」を育むために学校だけでなく家庭と地域が連携して様々な活動を経験する機会を子どもたちに保証するためのもの。積極的に子どもを家庭や地域社会に返す必要が…。土曜授業はそれに逆行！

### みんなではぐくむ子どもの未来 (文部科学省 HP より)

学校週五日制は、学校、家庭、地域社会の役割を明確にし、それぞれが協力して豊かな社会体験や自然体験などの様々な活動の機会を子どもたちに提供し、自ら学び自ら考える力や豊かな人間性などの「生きる力」をはぐくむことをねらいとしています。

## 子どもの学力が低いのは勉強時間が足りないから…？

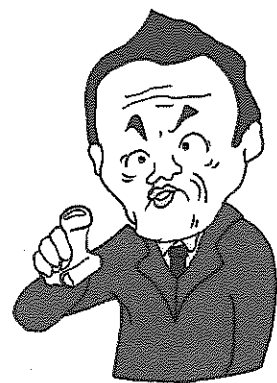
➔ 時間がないなら増やせばいい！授業時間を増やしさえすれば問題は解決する…の？

- こうした物量主義の延長にあるのが、  
**土曜授業の実施・長期休業日の短縮** です。●
- ➔ 小学校の授業時数増加のため夏季・冬季休業を削減…？

### いいえ、工夫次第で時間はいくらでも作り出せます！

- モジュール（1回15分×3回＝1単位時間）を活用する。
- 行事を教科に取り組み、行事時数を減らす。
- 県教組新聞『学校あるある』を見直そう！』を活用する。

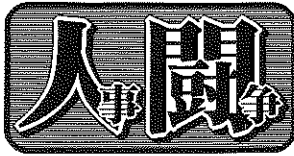
等々、県教組のHPには、盛りだくさんのアイデアが詰まっています。  
右のQRコードでアクセスして、CONTENTSを開いてみて下さい。



### 学校閉庁日について (文部科学省 HP より)

文部科学省としても、(中略)、学期中は多忙な教師が長期休業中に休暇を確保し、生活の質を豊かにすることで、子供たちに対して効果的な教育活動ができるようになるよう、一定期間の「学校閉庁日」を設定することを推進しています。

地球温暖化が進み、「災害」とまで形容される日本の夏です。こんな酷暑の夏に働き過ぎれば「灰になる」どころか灰すら残りません。子どもも教員も健康被害が増加するだけです。「学びの質」を高めるには休養は必要不可欠なのです。心身ともに疲弊させるだけの土曜授業や夏休み短縮を見直しませんか？



# 1月5日 県人事闘争委員会開催

県人事闘争委員会では、管外への異動について、次の観点から検討し、通勤・勤務の困難性をもとに、重点・課題人事として県教組で取り組むことを決定しました。重点・課題人事は、地教委、教育事務所との交渉だけでなく県教委と県教組でも交渉を行い、下記のような困難な状況の解消に向けて取り組んでいきます。

- ① 別居解消人事 (夫婦別居・親子別居)
- ② 遠距離通勤解消人事
- ③ 介護を行うための人事
- ④ 身体的・健康上の理由による人事
- ⑤ 避難生活者の生活維持に関わる人事

日程については、教育事務所によって多少異なります。また、地区によっても異なることがあります。各段階で校長は地教委から異動の状況について説明を受けますので、組織打ち合わせの後には、校長に確認しましょう。近年、事務所によりますが、組織打ち合わせの時以外に校長に状況を説明しない事例がありました。校長から問い合わせがあれば、応じるが、何もなければ、そのままという事務所もあったようです。「おかしい」と思ったら分会長に相談し、複数で校長に確認するなどして、必要な場合は支部に連絡するようにしましょう。

## 〈今後の日程〉

- 組織打合せ 1月中～下旬
- 組織打合せ 2月中旬
- 内示 3月初旬
- 最終人事会議 3月中旬
- 辞令交付 3月20日過

## 分会長を中心に分会人闘を進めましょう。

人事異動では、本人の意向に近づけるためにも分会、支部、県本部の連携を密にし、円滑に行うことが大切です。

### 組合員の皆様からの感想

前号の県教組新聞新春号特別企画「間違い探しクイズ」に多数のご応募頂きありがとうございました。

抽選で当選された皆様には、後日、支部を通じて賞品をお届けいたします。また、皆様から寄せられた感想を紹介いたします。

「学校あるある」を見直そう(その7) あいさつ運動については、考えさせられました。あいさつがその子の人権の問題に関わることもあるということです。私の学校でも朝のあいさつ運動(JRC委員会)があります。問題点を考えて見直すことも大切です。声をあげていけばと考えています。

(いわき支部)

日々の仕事におわれている中で、正しい視点軌道修正していただいていると思います。本部の皆様、ありがとうございます。(相馬支部)

「学校あるある」はなるほどと思うが、職場で(上司が)変わらない。変わった分会例をもっと出して下さい。(耶麻支部)

いつも大変勉強になり、読ませていただいております。

5年ぶりで子育て休暇を取得して、何とか日々仕事をしていますが、組合の皆様が子育て休暇や介護休暇を獲得してくださったおかげで、今ある休暇が取れるということに、本当に感謝しています。これからも、よろしくお祈りします。(西白支部)

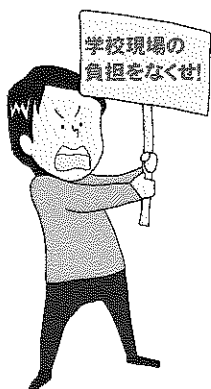
# 「ふくしま学力調査」の弊害に抗議!

## ◆ 地教委が校長に学力調査対策を「依頼」していたことが明らかに

来年度4月実施の「ふくしま学力調査」実施に関して、県教組が危惧していた事態が生じています。

県内のある地教委が、域内の校長に学力調査対策を「依頼」していた事実が明らかになりました。これは、県教委が学力調査を実施する目的から逸脱するだけでなく、調査の目的をゆがめ、現在でも悲鳴を上げる学校現場のさらなる多忙化を招くものです。県教組は直ちに県教委に対して抗議と改善を求める要求書を提出しました。

詳しくは掲載の抗議文をお読みください。



2019年1月29日

福島県教育委員会  
義務教育課 課長 様

福島県教職員組合  
中央執行委員長 角田 政志

### 「ふくしま学力調査」実施に関する抗議および改善要求書

本県教育の充実・発展のために、日々努力されていることに敬意を表します。

19年4月実施の「ふくしま学力調査」に関して、福島県教職員組合は、18年9月「「ふくしま学力調査」に関する要求書」を提出し、強行実施によって予想される学校教育への影響を懸念し対応を求めてきました。また、同年秋季確定交渉においても3、655筆の要請署名を県教育長に提出し、「福島県内の学校教育に偏りをもたらす」危険性について指摘してきました。交渉において各市町村教育委員会への対応も強く求めた経緯は記憶に新しいところです。

たいへん残念なことに、県内一部の教育委員会から、「県学力調査に向けた対策」に関する依頼文書が管轄する小中学校長に向け発出されていることが判明しました。内容は、19年度「ふくしま学力調査」実施日までの検査教科に特化した時間割の変更や年度末・始休業中の家庭学習の内容に関しての調査対策です。依頼文書の教育行政下における影響力は周知の通りです。

これは、個々の「学力の伸び」を測定し改善を図るための方策を構築する、とする「ふくしま学力調査」の目的から大きく逸脱した、市町村教育行政の学校教育への介入であると言わざるを得ません。福島県教職員組合が交渉の中で指摘した「学力向上競争」の表れです。

福島県教職員組合は本事例を生じさせた福島県教育委員会に強く抗議するとともに、各市町村教育委員会への指導と、今後実施される「実施説明会」等において下記の事項の周知徹底を強く要求いたします。

### 記

1. 「ふくしま学力調査」に関する対応策を市町村教育委員会が各学校に要請・依頼を行わないよう、強く指導すること。
2. 本調査に係る事後の県教委、市町村教委、学校内での分析・子どもの変容に関する報告書を求めることのないように徹底すること。
3. 実施にあたっての教職員の負担軽減を明文化し、市町村教育委員会に指導すること。

## ◆ 「現場に迷惑をかけない」原則を遵守させるために、県教組は活動します!

今後も「ふくしま学力調査」に関して、独自の判断で市町村教委(地教委)、管理職から「学力向上競争」を煽り、学校の多忙化を招くような文書や指示が出されることが予想されます。

県教組は各支部に対し、「「ふくしま学力調査」に係る市町村教育委員会および管理職からの学校への対策強要に関しての情報提供の要請」を発出し、県教委へ改善を求めるための情報を収集しています。

皆さんの分会でも「ふくしま学力調査」に関して、管理職や教育委員会から不当な指示をされた場合は、遠慮なく支部または本部へ連絡をお願いします。(本部フリーダイヤル FAX: 0120-17-9312)